

今どきの図書館

小児科学講座 須田 憲治

以前、同様の企画で自分が図書館に行かなくなった話をした。実際、必要な文献の多くは online journal で無料、あるいは有料で手に入る世の中になった。多くの本の購入も Amazon で one click で終わる。しかも prime 対応であれば久留米にいても翌日には手に入る。

これからどんな人が図書館に行き、何を求めているのだろうか？日本経済新聞が行った「図書館利用者調査」では、図書館に収集して欲しい資料の上位 3 位は、①専門書・専門紙誌、②音楽・映像ソフト、③地域の歴史や文化・習俗の資料であり、図書館に欲しい施設の上位 3 位は、①自動貸し出し・返却、②レストラン・カフェなどの飲食サービス、③早朝・深夜開館であった。

当然、我々の利用する医学図書館は一般の図書館とは必要とされる資料も異なるため③はそれほど無いが、①の古い専門書・専門紙誌と②の映像ソフトは重要な資料であろう。古い論文や書籍を PDF 化するにも限度があり、かなり古いものになると、online で手に入らないことがある。今でも秘書さんに頼んで、コピーを取り寄せてもらうことがある。また、映像資料特に裏表紙に動画の DVD が入っている画像診断に関する教科書やマニュアルは多数ある。僕が分担執筆させてもらった先天性心疾患の心エコーハンドブックなどは、本を購入するとネット上の動画を無料で見ることが出来るようになっている。ただ、こういった教科書的な動画も YouTube を探せば見ることが出来るかもしれない。

一方、僕の専門領域の先天性心疾患では、それを（その疾患）を見たことがあるかどうかというのは、非常に重要で有り、一度でもその構造や形態を見たことがある人は診断がつくが、無い人には診断できないということが往々にしてあり得る。従って個人的に経験したことの無い稀な疾患の動画映像を見ることは非常に重要なことである。最近の医学雑誌の中には投稿画像として、静止画だけでなく、mpeg での動画を受け付けている雑誌も多く有り、稀な疾患症例の virtual experience を可能にしてくれている。

また、施設として②レストラン・カフェなどの飲食サービスの併設は tsutaya-スタバで見られるように、いろいろなところに存在し繁盛している。購入前の書籍をコーヒー（紅茶？）を飲みながら読めるというのは画期的なことである。一方、公立図書館としての武雄市図書館がスタバと collaboration したことが数年前報道された。武雄温泉に近いことも有り全国区で有名になり、観光地化してすでに 100 万人が訪れたという。

観光地化される可能性はまず無いが、旭町図書館に基礎 3 号館にあるようなカフェでも良いので併設され、ゆっくりと古い書籍や論文が読めたり、動画が見られたりするようになれば、僕の足を運ぶ回数も増えると思う今日この頃である。